

25	北設	東栄町立東栄中学校	オオホリ カズキ 大堀 和樹
分科会番号	2	分科会名	外国語教育

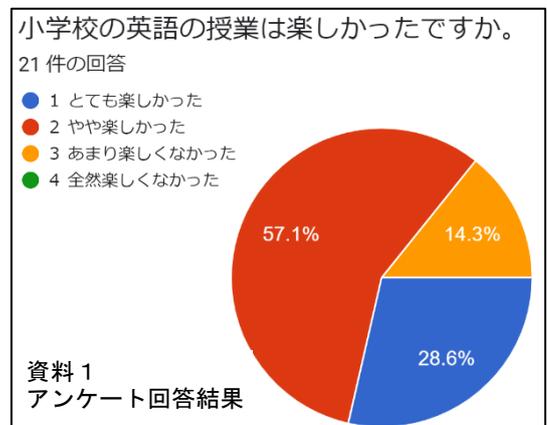
目標をもって学習に取り組み、音読の方法を工夫して、教科書の英語をすらすらと話せる
生徒の育成

～中学1年英語Unit4「Friends in New Zealand」の学習を通して～

1 主題設定の理由

(1) 生徒の実態から (男子15名 女子7名 計22名)

第1学年の生徒は、単元開始前に行ったアンケートで大半の生徒が、小学校の外国語の授業が楽しかったと答えた(資料1)。さらに、学級内には、英会話教室に通っていたり、英語での指示や教科書本文を聞き取れたりする生徒がいる。一方で、英単語の発音や意味、スペルが分からなかったり、うまく英語でコミュニケーションできなかつたりして困った経験をした生徒もいる。こうした生徒に対し、教師から一方的に指示したり、教えたりするだけでは生徒は変容しないだろう。そこで、生徒同士の教え合いや学び合いを通して、英語が得意な生徒とそうでない生徒が相互に関わり合いながら、英語の学習に取り組む姿勢や英語の力を高め、自分にもできるんだという自信を身につけてほしいと考えた。



そこで、生徒同士の教え合いや学び合いを通して、英語が得意な生徒とそうでない生徒が相互に関わり合いながら、英語の学習に取り組む姿勢や英語の力を高め、自分にもできるんだという自信を身につけてほしいと考えた。

2 研究構想

(1) 目指す生徒像

- ・生徒同士で教え合ったり助け合ったりしながら教科書本文の英語表現に習熟する生徒
- ・毎回の授業に明確な目標をもって主体的に取り組む生徒

(2) 研究の仮説

仮説1 授業の中で英語を聞いたり、口に出したりする機会を繰り返し設定すれば、知識や技能として覚えるだけではなく、教科書本文をすらすら暗唱できるだろう。

仮説2 「学びの道しるべ」を示し、それぞれの目指す姿を具現化したプリント(「英語版なりたい自分」)に毎時間自己評価を行えば、見通しをもちながら英語の学習に取り組めるだろう。

(3) 研究の手立て

仮説1に対する手立て(自然と教科書本文を暗唱できるようにするために)

ア 手立て1: 「5ラウンドシステム」をベースとした音読表現の工夫

「5ラウンドシステム」とは、1冊の教科書を1年間に何度もくり返し使って英語の定

着を図る学習である。本単元では、本文の聞き取りや音読方法を工夫することで、生徒に飽きさせず学習に取り組ませ、知識とともに感覚として教科書本文を自然と暗唱できるようにする。

仮説2に対する手立て（目標をもって学習に取り組めるようにするために）

イ 手立て2：「学びの道しるべ」の提示

単元の導入で、教師から単元の流れやゴール、これから学ぶ表現を生徒に示し、生徒が見通しをもって学習に取り組めるようにする。

ウ 手立て3：「英語版なりたい自分」の活用

単元の1時間目に「単元終了後になっていたい姿」をそれぞれが考え、毎時間自分の目指す姿を確認し、自分はどんなことを学んだかなどを記述することで、自分の成長をつかんだり、学び方を修正したりできるようにする。

（4）単元構想図（11時間完了）

時間	学習内容	ラウンド
①	学習の見通しをもとう 新出単語の意味を理解して正しく発音しよう	1
②③④	命令形、What time … ?、What 名詞 … ?を使って友達とやりとりしよう	
⑤	本文を聞いてどんな場面か理解しよう。	
⑥	本文の登場人物になりきって会話を聞いたり、話したりしよう	
⑦	音声と文字を一致させながら音読しよう	2
⑧	いろいろな方法で本文を音読しよう	3
⑨	いろいろな方法で音読した本文をノートに書こう	
⑩	ペアやグループで穴あき音読をしよう	4
⑪	3人グループでロールプレイ（暗唱）しよう 単元全体の振り返りをしよう	5

（5）抽出生徒Aについて

生徒Aは、罫線の枠の中に収まるようにアルファベットを書いたり、授業の振り返りに学んだことや考えたことを自分の言葉で書いたりすることができる。一方で、先生や友達と英語で会話をするには「やや難しい」と感じている。身につけたい英語の力について「将来もしかしたら外国人と触れ合うかもしれないからすらすら言えた方がいい」と話すことに対しての前向きな思いをもっている。そこで、生徒Aには、自身の目標を達成するために主体的に取り組んでほしいと考えている。

3 研究の実践と考察

（1）仲間と学び合い、かかわり合って英語の力を高めていく生徒A

本来の「5ラウンドシステム」においては、本単元のように時間をとって単語指導や文法指導はしないが、実情として生徒はその学習の流れに慣れていない。そこで、本単元では、単語指導と文法指導をはじめに行う。その後、生徒たちに飽きさせないよう工夫しながら本文に繰り返し触れさせる。その中で「自然とできるようになった」という達成感や喜びから学習への意欲や自信をつけながら暗唱に取り組ませる。

ア 本文の内容を理解するための土台作り（ラウンド1）

ラウンド1では、新出単語や基本文を習得し、リスニングを通して本文の概要を掴む。インプット重視で個人的な活動をメインに行うラウンドである。

第1時では、生徒たちは本単元の新出単語27個の意味と発音を全て学習した。また、

定着を促すために新出単語を日本語から英語に言い換えるペアワークを帯活動として取り入れた。生徒Aは英語好きの生徒Bとペアを組んだ。Bは困っている友達と一緒に英訳を考えることのできるような心優しい生徒である。生徒Bが生徒Aに対して日本語を言い、それを生徒Aがすぐに英語で答え、それを聞いた生徒Bが正しく発音できていると判断すればワークシートに○をつける活動を行った。また英語から日本語に言い換える活動も実施した。資料2は生徒Aの○の数の変化を示した表である。生徒Bとペアワークをした結果、回を追うごとに言い換えられる数が増加した。

資料2 ワークシート記載の○の数の記録

日本語→英語

日付	6/12	6/17	6/20
○の数	10	16	19

英語→日本語

日付	6/12	6/25
○の数	9	17

第2～4時では、Key Sentence と称して3つの新たな文法表現を学習した。

第2時の命令形の学習では、表現の仕方を学習した後で、一方が博士、もう一方がロボット役に扮し、ロボット役の生徒は博士の指示に従う活動を行った。

第3時では、時間をたずねる表現 (What time) の学習の後、ペアワークを取り入れ、時間などについて互いに質問する活動を行った。生徒Aは「何時に学校へ行きますか？」と生徒Bに質問して答えをもらった。また、生徒Bから「何時に風呂に入りますか」と聞かれて英語で回答していた(資料3)。その後は、教室を歩き回り、友達だけでなくALTやJTEに質問したり、答えたりしていた。

資料3 第3時の生徒AとBの会話

生徒A : What time do you go to school?
 生徒B : I go to school at 7:20.
 What time do you take a bath?
 生徒A : I take a bath at 8:20.

第4時では、どんなものが好きかとたずねる表現を学び、ペアワークで互いに質疑応答した。生徒Aは生徒Bに対して好きな季節を質問したり、自分の好きな野菜を答えたりできていた(資料4)。

資料4 第4時の生徒AとBの会話

生徒A : What season do you like?
 生徒B : I like winter.
 What vegetable do you like?
 生徒A : I like onion.

第5時では、前半はこれまで学習した文法を用いたALTからの質問に答えたり、ALTに質問したりした。後半は本文のあらすじが日本語で書かれたワークシートの穴うめをした。前半は、生徒Aは楽しみながら活動に参加し、正しく答えることができていた。しかし、あらすじの穴埋めに活動が切り替わってから反応が薄くなった。資料5は生徒Aのワークシートである。空欄や間違いが多い。一対一の活動ではそれなりに受け答えすることはできたが、スピーカーから聞こえてくる内容を理解して書き留めることはまだ難しい様子だった。

資料5 生徒Aのワークシート

①あらすじを理解しよう!
 First listening : 教科書は閉じて Unit 全体の話を聞いてみましょう。
 Part 1 朝美の気持ちは。(そんがた)
 ニュージージーランドの今の季節は何ですか。(冬)
 Part 2 日本は今(9)時で、ニュージージーランドは今(12)時です。
 Part 3 海斗はニュージージーランドの何について質問していますか。(朝の気温?)
 後半は何について話していますか。(オリーブ)

②要点を理解しよう!
 Second listening : 教科書は閉じて Part 各々の要点を聞き取りましょう。
 Part 1 クック先生は最初朝美にどう言いましたか。(What time do you go to school?)
 そのあと、クック先生は朝美にどんなアドバイスをしましたか。(早く寝て)
 朝美は何をデイビッドに伝えていますか。(朝の気温)
 Part 2 この話題は何ですか(デイビッドの学校にある習慣は何ですか)。(朝の気温)
 それはどのようなものですか。(朝の気温)
 Part 3 食べ物でないキウイとは何ですか。(鳥)
 またその色や形は。(緑)
 女の子(エマ)はどんなスポーツが好きですか。(バスケットボール)
 それはどのようなスポーツですか。(バスケットボール)

第6時では、イラストを聞こえてきた順番通りになるよう並び替えたり、本文に登場する人物になりきって発声したりする活動を取り入れた。生徒Aはどの活動も楽しみながら取り組んでいた。生徒Aは正誤問題やイラストの並び替えをしている際、聞き取れなかつ

たものがあると「もう一回お願いします」や「One more time, please.」と教師にお願いをして何度もチャレンジしていた。第5時と比較して活動内容の難易度が適当であったことから生まれた姿だと考える。

イ 本文の内容理解（ラウンド2）

ラウンド2では、文章を聞いて問題に答えたり、聞こえてきた音と文字を一致させたりする。

第7時では、本文の正誤問題や聞こえてきた順番通りに文を並べ替える活動を行った。資料6は生徒Aが本文を並べ替える際に記入したワークシートの一部である。本時ではじめて本文の英語を目にした。並べ替え前に、本文を黙読するための時間を2分程度設けたくらいだが全て完ぺきにできている。これまでの学習で何度も本文を聞いてきたので、難易度が高くなかったため正しくできたと考えられる。

Part 3
Yes, but kiwis are birds, too. (4)
I like netball. I'm on the netball team. (8)
What animals can we see in New Zealand? (1)
You mean football? (12)
They're brown and round like kiwi fruits. (5)
Really? I play soccer. (11)
You can see sheep, kiwis, ... (2)
Kiwis? Kiwis are fruit, right? (3)
They're our national symbol. (6)
Netball? (9)
Yes. (13)
It's a sport like basketball. (10)
I see. What sport do you like? (7)

資料6 生徒Aのワークシート

ウ 本文の音読練習（ラウンド3）

ラウンド3では、ラウンド2での活動をもとにして、すらすらと読めるよう指導する。

第8時では、教師の後に続いて、単語やフレーズ、文単位での音読をした後、一人一人パートごとに全文を音読した。個別で音読練習する際には、どの生徒もこれまでより大きな声ではっきりと本文を読むことができていた。生徒Aも時間をかけながらも最後まで音読できていた。正しく読もうとするあまり時間がかかってしまったと考えられる。

第9時では、「Read and Look Up」という活動を行った。「Read and Look Up」とは、一文を限られた時間黙読した後、文から視線を外してその文を音読するトレーニング法のことである。このトレーニングでは、直前に見たり聞いたりした文を一時的に頭のなかに置いておき、それを暗唱することになる。生徒たちは第11時に台本なしでロールプレイし、動画を撮影する予定である。その時間になっていきなり自分たちで全文を覚えることは生徒たちにとってハードルが高いと考え、本文を覚える助けとなるように本活動を行った。生徒Aは文を黙読する際、文を頭の中に入れるためにささやくような声で練習していた。文から視線を外して全員で声を出して読む際は大きな声で音読できていた。活動に対してとても前向きに取り組んでいたと考えられる。

エ 友達とかかわり合いながら、暗唱に向けた本文の音読練習（ラウンド4）

ラウンド4では、音読練習が暗唱につながる橋渡しになるよう指導する。また、これまでのラウンドと異なり、友達とかかわり合いながら互いに力を高め合えるよう指導する。

第10時では、「穴あき音読」を行った。本文に出てくる動詞を隠したもの、本文を並べ替え形式にしたもの、並べ替えにした選択肢をなくしたものの3つにレベルを分けたものを生徒に配付し、ペアやグループで実践した。第9時同様、ロールプレイに向けた活動である。本単元は3つのパートから構成されている。それぞれのパートで制限時間（10分程度）を設けて穴あき音読に挑戦させた。生徒Aはパート1～3の全てでレベル3まで到達することができた。これまでのラウンドでの学びが力として身についた結果であると考えられる。

オ 登場人物になりきって暗唱活動（ラウンド5）

ラウンド5では友達と協力してこれまで習ってきた英文をアウトプットする。

第11時では、生徒A, C, Dの3人グループでロールプレイをした。生徒Cも生徒A同様、英語は好きだが、読み書きに困り感をもつ生徒である。生徒Dは英会話教室に通い英検5級を取得し、英語がとても好きな生徒である。そこで生徒Dを中心として練習を進めた。本文は3つの場面があり、覚える単語の数は生徒Aが70、Cが54、Dが57語であった。1つめの場面では3人ともが、2つめではAとDが、3つめではAとCが本文を覚え、声色を変えたり、ジェスチャーをつけたりしながら演じていた。3つめのシーンを最後に撮影していたが、生徒Cの覚える単語が多く、なかなか覚えられずに動画の撮影が難航していた。前半は言えても後半は言えない。途中まで順調だったがセリフを抜かしてしまうことなどがあり、制限時間となる直前になってやっと一通りのセリフを生徒Cが言えたときのやりとりが資料7である。生徒Cに対して、「もう1回やろう」と前向きな言葉が出てきた。最後の撮影では生徒Cがセリフを言っている間には、うなずきながら聞くなど余裕のある姿も見られた。生徒Cが最後のセリフである「You mean football?」を無事に言えた後に生徒Aは柔和な表情で「Yes.」と言ってしめくくる姿があった。生徒Aが何かを教えるということではできなかったが、友達とかかわり合っただけによりよいロールプレイにしようとする前向きに頑張ろうとする姿が見られた。

資料7 練習中の会話の様子

(生徒AとCがやりとりを録画し終わった後)

生徒D：どうする？AさんとCくんがいいならいいけど。
あと5分くらいあるし、やるならラストチャンス。
生徒A：もう1回やろう。
生徒C：うん、ごめん。やる。
生徒D：あとちょっとだから頑張る。

以上のことから「5ラウンドシステム」をもとにして、生徒の習熟度合いを考慮しながら音読やリスニングの方法を工夫し、生徒たちに飽きさせないよう何度も教科書本文に触れさせることで暗唱できるようにする手立ては有効であったと考える。

(2) 「なりたい自分」の実現に向け、目標をもって主体的に取り組んだ生徒A

本単元では、ニュージーランドと日本にいる生徒がオンライン交流をする場面が題材として扱われている。飛行機で日本からニュージーランドへ行った場合の所要時間は約11時間である。そこで、1時間ごとの授業における目標を実際の地図上に示し、本単元の1時間目に「学びの道しるべ(資料8)」と称して生徒に提示した。生徒Aをはじめ、多くの生徒は興味深そうに資料8を見ていた。

単元開始後は、毎時間のはじめに本時の目標の確認と自分たちが今どこを飛んでいるのかを確認した。時間経過とともにニュージーランドに近づいていくことで、学びの進捗状況を確認することができた。

「学びの道しるべ」の提示後、「リフレクションシート」を生徒に配付し、教師が示した観点ごとの目指す姿をもとに、生徒それぞれが目指したい姿を記入した。資料9は生徒Aが記入したものである。



学びの道しるべ
1. 英語を勉強する
2. 友達と話す
3. 英語を勉強する
4. 英語を勉強する
5. 英語を勉強する
6. 英語を勉強する
7. 英語を勉強する
8. 英語を勉強する
9. 英語を勉強する
10. 英語を勉強する
11. 英語を勉強する

資料9 生徒Aの「目指したい姿」

資料10は、第11時でロールプレイを撮影した後、記入した生徒Aの振り返りである。単元冒頭で記述した「発音をしっかりと友達に聞き取りやすくする」という目標の実現に向けて、舌の動きに注意を払って努力したことが読み取れる。

舌の動きをしっかりと聞き取りやすくする。

資料10 ロールプレイの振り返り

また、本単元終了後に行ったアンケートでは、生徒Aは資料11のように答え、満足度が高い様子が見られた。また、ニュージーランドに行くことと単元の学習と関連付けながら学ぶことができていたことが読み取れた。

<p>Unit 4はこれまでの学習と比べてどうでしたか。*</p> <p><input type="radio"/> 1とてもよかった</p> <p><input checked="" type="radio"/> 2ややよかった</p> <p><input type="radio"/> 3ややよくなかった</p> <p><input type="radio"/> 4全然よくなかった</p> <p><input type="radio"/> 5変わらなかった</p>	<p>そのように思った理由を教えてください。*</p> <p>いつものユニットよりかは目当ての数が11と多くてそれをニュージーランドに行くまで、と最後にニュージーランドに着くというのが斬新で面白かったです。ニュージーランドに着くまで3年に必要なやりとりがあるからおぼえていきたいです。</p>
---	--

資料11
生徒Aの回答

以上のことから「学びの道しるべ」は生徒が見通しをもって英語の学習に取り組むのに有効であったと考える。また、「なりたい自分」を記入することで自分の成長をつかんだり、学習方法を修正したりすることに有効であったと考える。

4 研究の成果と今後の課題

(1) 成果

ア 手立て1について

単元を通しリスニングから暗唱、ロールプレイと難易度を上げながら本文に何度も触れたことで、教科書の本文をすらすらと暗唱することができた。時間やラウンドごとに生徒がやることも明確であったので、教師が一つ一つの活動に対して端的に指示することができた。また、ペアワークやグループワークを通して生徒たちがかかわり合う場面を効果的に設定したことで、教え合ったり、助け合ったりしながら相互に力を高め合うことができていた。以上のことから手立て1は有効であった。

イ 手立て2, 3について

単元全体の見通しを口頭で説明することに加え、「学びの道しるべ」を実際の地図等を用いて作成したことで、視覚的にも興味や関心を引きつけ、学習の見通しをもって主体的に取り組むことができた。また、目指したい姿を事前に設定したことで、目的意識をもって活動に取り組み、自己の成長を捉えることができた。以上のことから、手立て2, 3は有効であった。

(2) 課題

「5ラウンドシステム」は言語習得のプロセスとして生徒にとって有効であると思うが5ラウンドシステムを導入している自治体や学校などに出向き、実際に指導の様子を見た経験がないので、単元構想や教材作成に膨大な時間を費やしてしまった。何度も本文に触れる機会があることは大切であるが、活動の順序や内容については精選していく必要があるだろう。1学期間、1年間、3年間を見通した指導計画をしたうえで「5ラウンドシステム」を取り入れるか、従来の指導方法を基盤としてさらにたくさん生徒が英語に触れられるよう教師が機会を提供するか考えていきたい。